

## 知的障害のある児童生徒のための指導と評価の在り方

千葉県立市川特別支援学校

電話 047-327-4155

FAX 047-327-6815



### 研究のポイント

本校教育目標の経営の重点「分かる授業を実践するため、発達段階に応じた教材教具の開発と共有を進める」を具現化するために、発達段階や生活年齢を考慮した教材教具を開発するとともに、地域に広報しての展示会や作成研修を行い、教育活動における教師の専門性の向上を目指す。また、「学習評価」について講師を招聘して研修会を行い、様々な評価の方法や観点についての理解を深め、授業改善につなげる。

### ■学校の概要 <https://www.chiba-c.ed.jp/ichikawa-sh/>

市川市南部、浦安市全域を学区とする小学部72名、中学部65名、高等部86名合計223名が在籍する知的障害の特別支援学校である。知的障害児入所施設「八幡学園」からも50名の児童生徒が通学している。児童生徒の増加による過密化による教室不足の解消が喫緊の課題となっている。学校教育目標「自分の未来を拓いていく子の育成」実現に向けて、全職員で日々の学習指導にあたっている。

### ■研究課題

知的障害のある児童生徒の指導について、発達段階や一人一人に応じた教材教具を活用して学習を進めるとともに、客観的な評価の視点や指標について実践研究を行う。

### ■研究の目的と方法

#### 【目的】

- ・児童生徒一人一人の教育的ニーズに合わせた教材や教具を全職員で共有し、より良い授業づくりをめざす。
- ・学習評価について、本校の評価の観点を明らかにする。
- ・教育活動における教師の専門性の向上を図る。

#### 【方法】

- ・「教材教具ハンドブック」を作成し、全校で共有
- ・開発した教材教具の地域への展示会や作成研修会の実施
- ・ライフステージ研修(経験年数別研修)の各授業研究会で、教材教具の工夫や MT(メンティーチャー)と ST(サブティーチャー)の役割や場の配置に配慮した授業実践と、協議会での振り返り
- ・個別的教育支援計画作成について校内研修実施
- ・講師を招聘した学習評価についての研修会実施
- ・学校教育目標を受けて、各学部における「評価の観点」を「めざす子どもの姿＝つきたい力」ととらえ、学年会、学部会、教育課程検討委員会などで検討

## ■ 研究概要

### 1 教材教具について

#### (1) 「教材教具ハンドブック」の作成

これまでの研究を通して、即時評価のひとつとして教材教具の重要性を認識した。教材教具の充実は、本校の学校経営方針の重点目標にも挙げられており、開発した教材教具が職員間で共有できるよう「できた！わかった！やってみよう！のためのハンドブック」を作成した。「子どもの様子や期待される効果」「校内スーパーバイザーからのコメント」の欄を設け、写真と共に職員室入り口に掲示した。職員だけでなく、保護者からも好評だった。企画会、教育課程検討委員会でも学部間の教材教具の情報交換ができた。

#### (2) 教材・教具展の実施

夏季休業中に一週間、各学部の教材や教具を展示した。夏季研修や総合教育センター主催の障害別基礎研修で、他校職員にも紹介することができた。この展示会でヒントを得て夏季休業中に新たに教材を作成する職員が多く、非常に効果的だった。3 学期は学部内で展示会を行った。今後も恒例行事としていきたい。

#### (3) 教材教具の工夫の見える化

年間 30 回以上にわたるライフステージ研修における授業研究会で「教材教具」「MT と ST の役割」「場の配置」を意識した授業展開と協議会を行った。子どもの持っている力と教師の思いが形になって現れることも多く、実りのある授業研究会となった。

### 2 学習評価について

#### (1) 学習評価研修会の実施

筑波大学附属大塚特別支援学校教諭 中村晋先生をお招きした。通知表や授業研究会での評価だけでなく、教育活動すべての場面で「多様な目標の見える化」が多様な評価につながることを全校職員で共通理解できた。

#### (2) 「つきたい力」の確認

研修会の中で「本校独自のつきたい力を明確にしてほしい」との講師助言を受け、学年会や学年主任会、学部会、教育課程検討委員会、主事会などの複数の組織で「ひとことで表せるキーワード」として検討した。小学部6年間が同じでいいのか、中学部と高等部の目指す姿の違いなど、様々な意見が出た中で、ひとつにまとめたことは大きな成果である。後期の目標設定時期に評価の観点が明確になってきたことで、主事会、企画会、教育課程検討委員会などで確認し、後期の指導に生かすことができた。今後もこの「つきたい力」をキーワードとして授業づくり・授業改善に生かしていきたい。

#### 【考察】

教材教具の開発も学習評価も無限であり、今後も、子どもの「つきたい力」を実現できる教材教具の開発や、いろいろな場面や方法での評価に努め、子どもたちが「できた」「わかった」「やってみよう」と思える授業実践をしていきたい。

#### 評価の方法＝多様な目標の「見える化」

- その場での評価  
（「できたね！」教材教具）
- 仲間との評価  
（出来高シート、終わりの会）
- 一日の終わりでの評価  
（日記、帰りの会、連絡帳）
- 学期の終わりでの評価  
（本人との面談、保護者面談、進路面談）

#### 各学部の「つきたい力」

- （小学部）  
身の回りのことを自分から自分で
- （中学部）  
社会に出て行く力
- （高等部）  
社会で生きる力